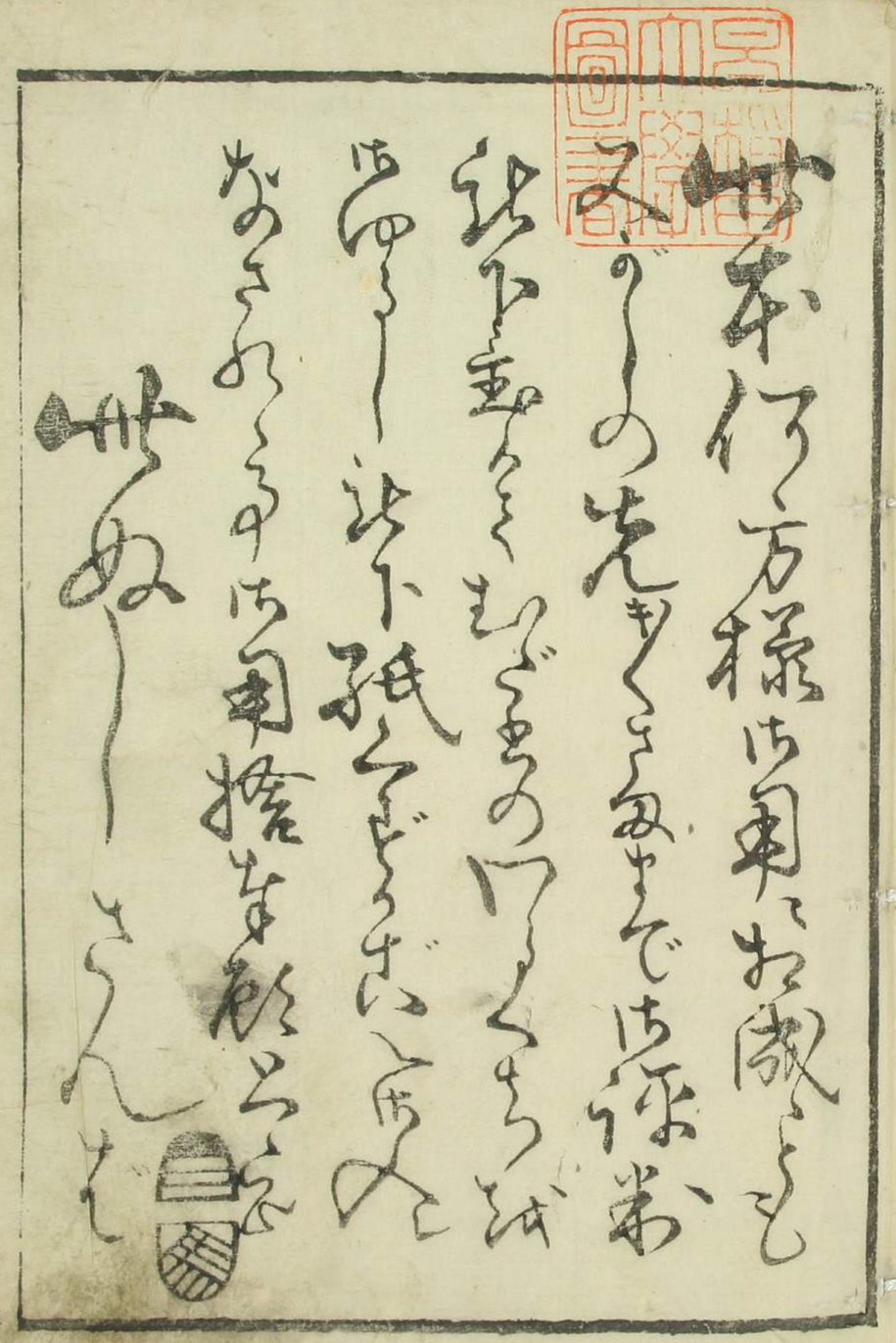
特
へ遠13
1993

門へ 13
1995
巻



道外節用小野篁愚謡字盡

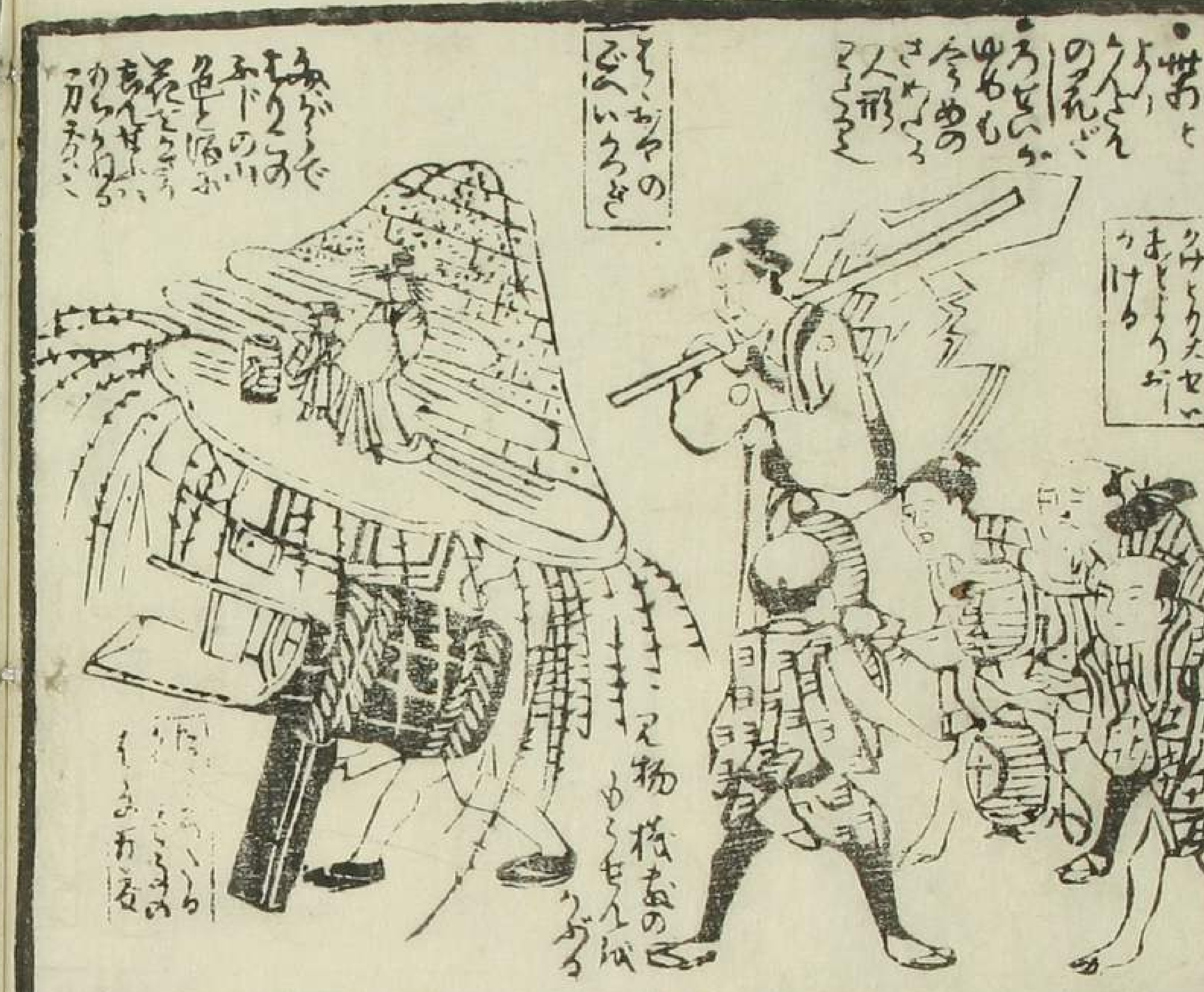
總目

一客人乃宮詣乃祭乃図
一むすめ箕用早刷乃法
一浪つゝひ早刷
一額うんぞんの書法
一繪馬并ゝ聯乃見立
一諸家紋帳
一平産ぶ志ゝ乃事形
一通神の縁起并家の行列
一利勘乃袁
一けん多ん乃刷
一亀紙短冊扇認名
一年中通用文章
一叢書似ゝ字尽
一招素さゝ百年送物器

一小野篁の小伝并図
一新製いろは文字
一五性名頭字尽
一妻出うかゝひ
一人相小うぢみ并図倫
一諸流小うゝひ
一毛角述ていろはの來由
一篇冠搆字尽
一異形并名つくし
一手の筋早見
一面部図并注解

○かまど詞大概 ○頭書内縁
○五性出判
○難字つゝし ○まゝゝこと ○流行ことば詞
○痕紋図伝 ○人相図倫 ○平生よくゝ詞
○旅の面図 ○月乃異名

大尾



○客人宮後祭禮之圖

○通神之縁起并祭礼乃次第

客人之通神と通ふ神ハ神名標
灯五町ぢうの内至章封めの上で毛やし
あり。真実ハ此地ハまくらひ銀ちれ
して五臓三焦上ミえし。殿ふくきけなせ
を後生ごんをおかうんきなさてあけ。お
さ旦あふ。役目乃ま六りんいち志ゑく盃も
正月もおつあひあく。先を酔ともあれ山と
みえと更にお神崇めさとえんあいぞおれ
よんてく信仰のむあくうかう集りのとあぶら
せんすハ附の神のことを裏顕ハ網の毛まうしま
を其一二とうぞふる事。年よりうく我の思ひ紙
あるよおぐら其八五十とこえても初子おと
すゑひ心敬して同のさわぐる。老いれの
学問さするとびげふそいろは乃いろ字初で

左りまへあするおさとしめふこえ祢祇の祭
乃次第ハおんぢおう十五日廿八日乃お神酒を
うらさされ。二月十六日廿九日の夕方こそ恐慌
又あくる日。別ハ前わさ能しく精進日と忘
ましく。魚鳥の食ひでくとなおそぐさく
神おふしみひ備人の動定しまうとい
とも掛るのもゝひととを忌ぶれでものおふ
ぎんちりつ〳〵ておよへも生かぶもおあが添かれ
神主の役柔ハ後悔なそふまくねるかの鏡さ
あろふ志んせくとお常あんぎさへ客の怒と害
出神るも底と叙て底とさどおかしれども甲斐なし
此おとのおすの複人ハ肉挟して神お酒しと
男。賢處しく女とつくしむ若いでさせられて
気の法ハさ男。饒さあもそで大翔むとも人
く。敵ぬんで夫ぬをうで盗人がきあて縄と

○山鋒行列乃次第

口鋒

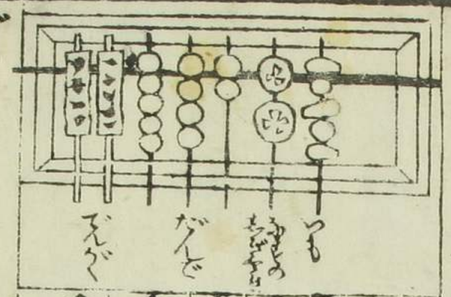
ちゑくらべ

逆意

左数枠

物くり二人

腕算用早割乃法



おしつめがひきさん前がよいと
くらべくらべあはしよくしておく
ひくぶにふれれば時を
二けん二てん三四五六
七八九十と
けん数かな

法曰
二でふつうの二一個かゆせつ
五町ふるつて三段の二ゑ東テ
とする
とらそめち二一鎖係でまいれば
きて云てちんがちんす二つまでせん
の歩を引く。一二が二つあづりて云
ひいく差九をとる。
茶碗ゝうのたる六拾目ときる
二人の割合ざんと金弐両之の
りてどおら五丁目りうハテ二
両目わゆきんしゝ両目つき合
をおさむもろく其ちが割るる

ざれ子ざん

いれ子ざんのやうないとざれ子ざん
とらいてまをくちやくわんとさう
のくんだ明しいかも前よう出かあ

ざれ子ざんは、まづちとわかにおちくらでうかういぞれ
かうわの盃で呑むゆへ、べいつのそてかういして楠豆での
むかくめんどくさうまゝ切りくぐらり出しのぞぞうう
まゆもござりませぬ。おやあかされまませぬ。おあめのことふ
かうまゝとふくうらいくぬるので、ござるゆへのよふ
がやあ酒日呑なしし何斗何升何合のむやう勘
定がかうなるその時ぞくら同しくされ出しく
又ゝ茶碗ゝよう術まで呑む割されずさんと云

銀はかり平割

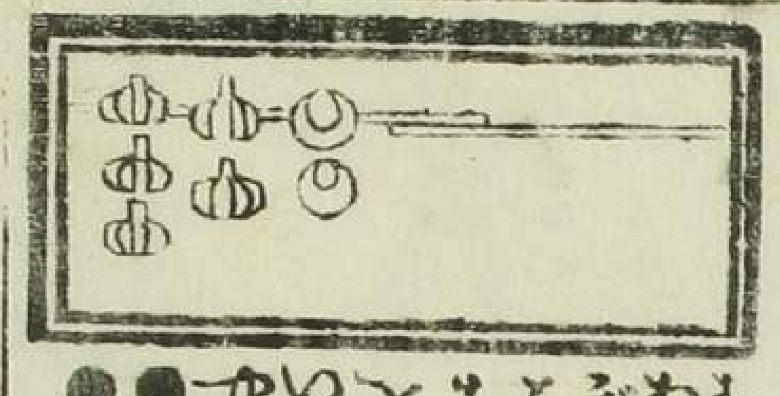
銀七匁五分くらゐせば
湯が千文ただこれが五匁
かゝわりおぼろて十文
とのおとこにゑが花罗
ゆうじが四文そくらぶさ
が千二文銭活銭が花
八文ひさらい銭さらふが
百文とわのくそので
とちまちつまりんの銭
いかくありて銭の法で
初めのそ銭あらやまの
ざく次の図にそくらく
ひとひ頭なのんで
時すのふが頭の同の
算一向勘定あるの

かけまわり算

かけまはれ算へ茶碗に実ゞ夕ほど水あつて酎せんと
あんでちゝんとするの事ござるよ

犬涼乃割

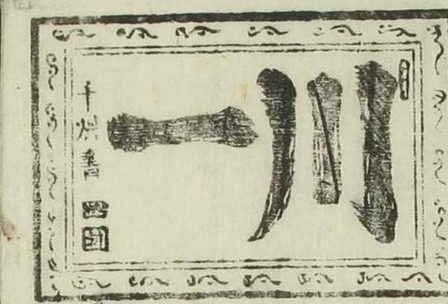
口述小間物貝世。
あがゆそ用る算せ之
。
物をひらはる時ハ
○印ーまへ一とらへよ
爐火をかへれぬ時ハ
典物ニて法早急の質



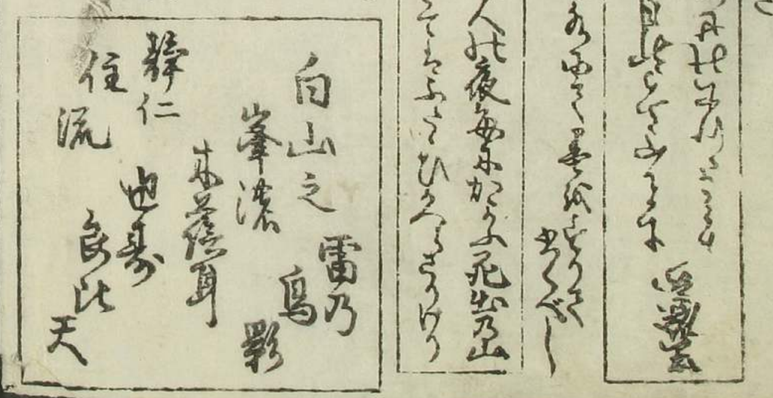
そくぶつなのことまで
わくしくまさ子乃つん
ぎうのくらの九むき
そうしが二わりんのさる
せづれかしまたくらん
とよくく酒家の比する
いわでをせけんあるの
やくちとるまり
●●一ぬが二つ三あ二ある也
子碎がいかに
△△かどのくみかごへ
△舟ののぞかごへおやめおとろらち
○ござぶろく二升六ぬやく
○大酒信好ひんくある也
○大悦茶中酒酔乃及吐

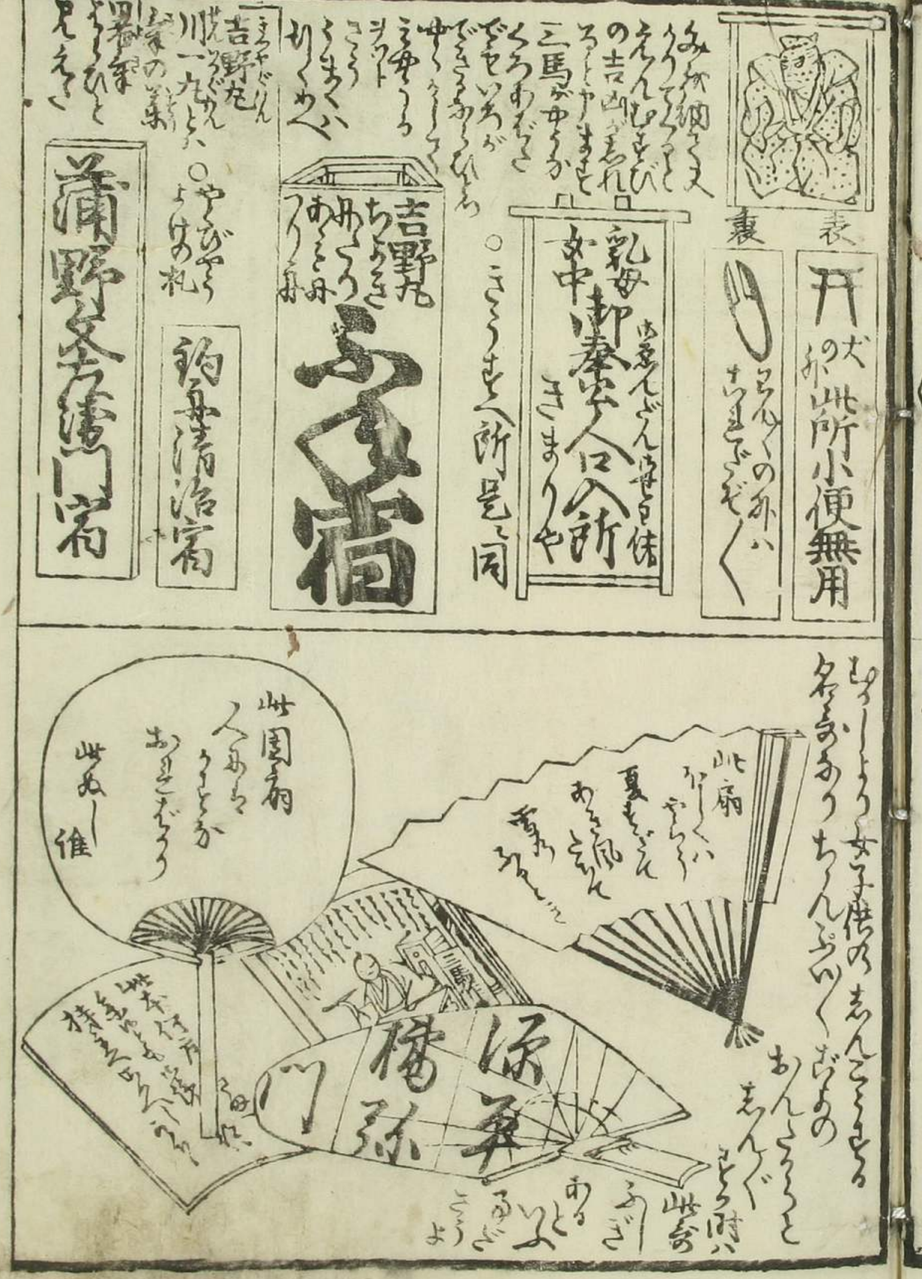
あるひハ京の三拾三間堂ふ佛の数が
三万三千三百三拾三体おぶるとやくと称
山王のさるの中のおさるのまで
三万三千三百三十三匹ぶられば
○こぬき百疋抱八百本菜桐ゐ菜桐二菜桐合をゑ菜桐
しいが案相しあるる。是かまくそひのくづれバさつふ勘定之ワらぞ

○看版類乃文字書法



○色紙短冊扇徳利





○繪馬

此板東物は弓物の用ゆ
彩物の仕失物なふ下拵

火用心

ろど四時限

栗嶋

○年中通用文章

寿始之玄駒杯之義と見て之
雑煮やゆい別の徳義に出第載之
家内出般嘉。解様中之寸義之
諸人同出義納い拵之為の一玉
乱米切之五枚和之文の元結水引五筋
萬年中に重宝墨摘之大小一枚
名札へがしい沈永田之とらのまげ落
遊いかりく扇箱之主結之鯛く如

佐あ
の
紋
さ
け
ま
石の
ん
ち
丸
食
七

繪る紋付中と新田拵の矢し姫
扇く形しる糸二本へ紋割熨斗
主コレハ出早ぐし糸牛ない次
か七種せ紋英に来玄之出行し家付
完よふ用の宝私一枚出要中へ
之陰近て名札紙今進後之い鱈
昆布と屠蘇杯沈永田之時い磨
出乃鳥之水波先毋さとん
若松万載門松　三河産　戈義
その他の文章　畧之

彩古乃てんかまじるさもわらふましらえ字まるし

大篆（だいてん）小篆（せうてん）似字盡（にたじづくし）

「酉の字と ○さそりつぼ

「五の字を ○今にやさき乃わ称さ哉

「四の字に ○奴また

「六の字に ○四谷とびどこ

「巳の字 ○かさみ

「累（るい）の字 ○くわい三ら

「呂（ろ）の字 ○せうどト 使利

「呂（ろ）の字 ○うの大師

「糸（いと）字 ○まひさ

「在（ざい）の字 ○まきのさご

「上の字 ○つきふし

「丙（へい）の字 ○犬のつきんのうしろ肉

「鼎（てい）の字 ○ちんぷ

「手（て）の字 ○たらでらちん

「全（ぜん）の字 ○唐人（とうじん）のさござ

「高の字 ○石どうらう

「毛（け）の字 ○枝さんご面

「皇（くわう）の字 ○樂（がく）のくわゑんどふそ

「鳳の字 ○なまりあんどう

「朋（ほう）の字 ○粉乃さく

「固（こ）の字 ○裏（うら）から見るめん おかめ面

「用の字 ○糸（いと）のまく

をべて古文字不誤字とさだちけとてかぜ英気で徒境

「山の字 ○ちやうふくら

「天の字 ○角力とり二人

「貝の字 ○ふかゑんどう

「私の字 ○みすうり飯

「之の字 ○ろうそくのしやうせき

「西の字 ○五合便利

「丈の字 ○かんざし

「言の字 ○か縁つき堂

「山の字 ○からり松

「目の字 ○しんらう

「玉の字 ○ろうそくのよろやき

「爵（しやく）の字 ○上下かさのうけあらし

「惡の字 ○釜花のけ

「白の字 ○肉つきのあるりんだん

「貝の字 ○ぜくろの

「又の字 ○くぎぬき

「且の字 ○騎射の的

「化の字 ○さらばゆうれい

「泥の字 ○仁和寺のおかめ

「命の字 ○ごふくのさそおから

「命の字 ○傘やさうかけ おいらんの裾

「孟の字 ○つんまへ大臣

「正の字 ○あくろのふくろ

「豆の字 ○ちうらむ叶福助

無禮不躾方

○遠州わき祝の化かう
わらかす派
あらむ不礼なら
ふところ手で
みぞろう
あらぞう
どうう
さらむの者
ちいとさやか
と そろばんで
ぞいざんおしく
ぶふいふべし

○鼻紙もちて
まざくちとうろうて
そのゆび紙頃根か
さらさ武文
こちのあつとも
いかれありを
くらのかそ
ちらきとうけ
べし
人のあるは
その人の方へ向ひて
ツンと切てまその紙袋ひろげてくん
チイン〳〵とおかみを為すらくあるかなどくく

将棊指方並詰物

盤面九々の升目に割るは九の意 苦ち楽の備といふをもつて 九面九面といふ九面之もつて赤祥なるぞ

主 向ふ見ずふつきでてへるまで 用るひふだのかくひいるし

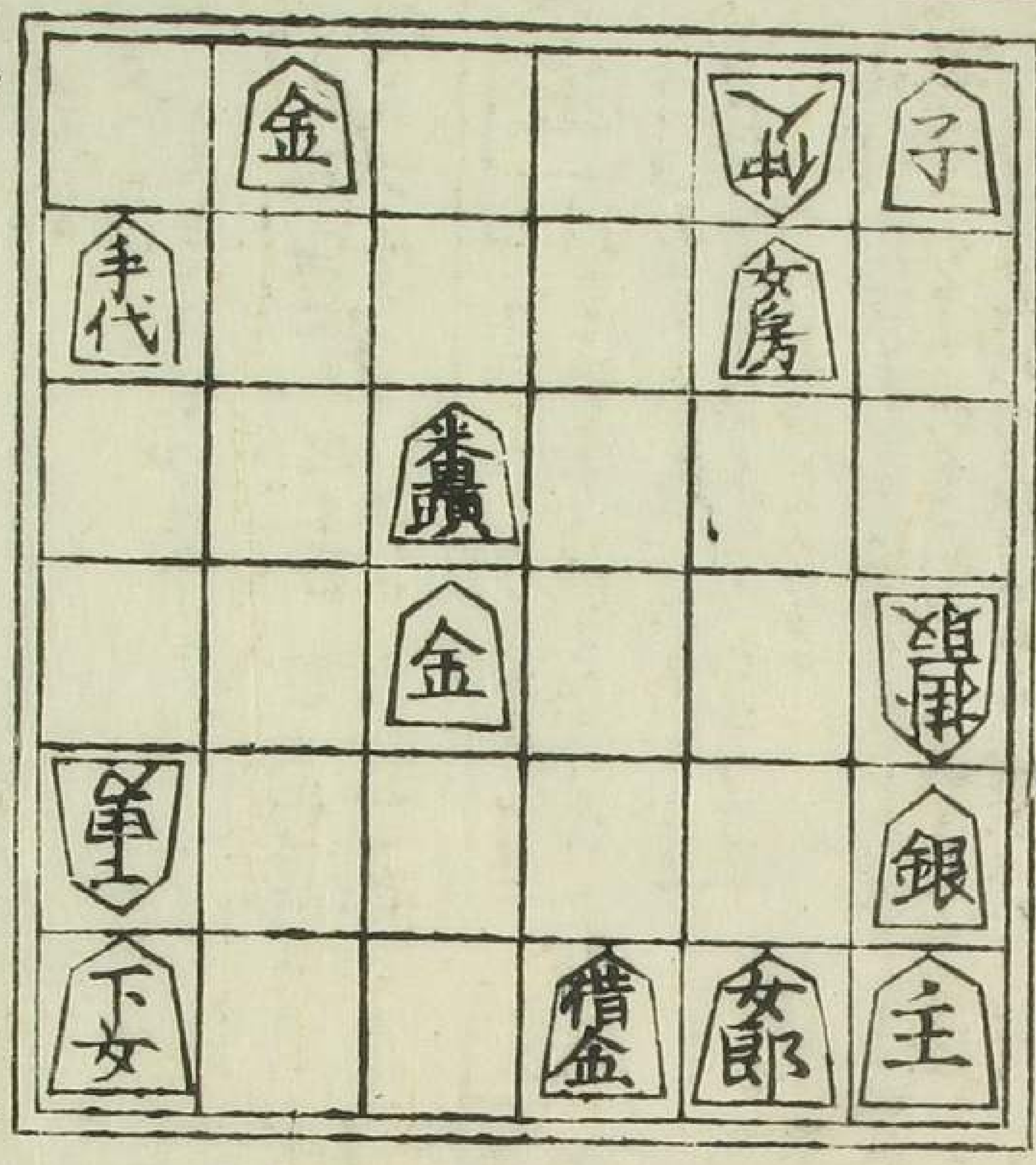
女房 わきぞ水ちらひ下女下男 とよくつかふべし わきまうふ つかうさてよろし

番頭 内證までの納まで大くの役 わるしのまるかうといふまり 手代のつかひくさ山をあくべし

金 銀 駒の内まで貴くの大切なかみで金銀を あやしけんのほきふくらぎまけらも 死ぬもつかぬことを あさぬかかりんあり

下女 女房の納のさしとおぼで ひよくそらくべし あひ見ぬこえで下男とさし向ふ大きいそれわり

手代 あそし派よくかさひ金でさる紙いうて走るの道 金眼を手まへ身とえあるくいうさけば大さく うちん紙しる志んがらして年まくら紙まちて泊あるべし



象棊といふは内の面々老人の一盃うつろ むかしよりの後生気といひ又性悪人の媚 数の中わかぶる物まへふさかんくらちり とつまの振にわよびなし 是等は男子て
○ぶらまへざ○かゝせてざ
ハテ駒で物ご何やら将棊そのふ

主 高上りふ驕つて所先の老ふかく金銀をほかひ捨てし 金 銀ハ向ふ方へとられて 二歩ふ五面をしかふとよの字まで見附さ 借金と女郎とうまでく家をさへ不流 しきつそうと歩すと 掛取がきらつきつのて 四ふて浪ますある 物まへ不ちきの大切な がさびく得すくるる外金馬内 掛ひの銀を打て番頭くその 番頭ぞ 手代も金をとえてちりぐ宛する心忍 ごふせざご一向つあるぞさし 女房ひとり 仲人とさし向ひのお後中で ろつる子をさきざんで 仲人のおんなり ひ王の振ゆるありくのもらふと 他人のまく ころら下女も又まる病み向の下男とさしあひ おしふみか妻らのまるだあみし まく是ある者 とある 甥で物ハ借金と女郎ぞそのあとふも生き を思ひてやくまの世ずでもあくあかせらんつの とかくさ所のつまりまあかさつくしなかしく

文字八陰陽の生じて万象となるごとく人間日用の急務なる小野篁秋字尽を倣ひ偽作なるやうなれど競向を面白き事なれども已己巳楽楽のごとく俱説きくかうべ却て童蒙れなる小毒なれども今春と盧字尽いかんどんかいろうれ文字を輝められば毒なれども毒もあるべき笑くきもあるべき高きもあるべき馬唯子なれもあるべき果蓏爺ばちぶちなる和げ嫁いぢる猫まる婆ば頤なる解きなるまう埃苦出と食洗し笑くくこと百損とくくる巣とくくあばらのうまば孫くんきくめ

「篁は似て蕙とりの文字」

小野篁蕙と盧八百余代
慨く天皇の徒字
小野俱成らるる程の
所乃中にある名なるの
人あらしが或時外林の

小一人の童子を呼ぶ
尼なるぬ者と思ひの外
尼なる故ぶ事ぶんくと成
なれば尼ぶんなる除めず
抱をぶんぶる事よあんと
家ふ者ひりぶえ来る
中あるく尼なる放しぶ
弥治郎ぶ者ぶりる
虚字尽ぶ呼ぶ
つれあて彼吉ふいて
うをつを小治ふやぶの中
で尼なる撒さくを世ぶ
後まもくくをもる
新と呼て小野篁ふの
此虚字尽なる集作なり

小野篁哉附芝居
子どもしく遊び語りしが
おくの大臣おゝのゝ
こんれいく根拾王
深草も平太も谷天神
偖の字は座中で子の字
八ら紙ほく早紙
遠く達ど帯りて
継をみごとにあゝれば
篁ちやうめんが韻らあい
の謎紙をつくまらせける
○子子子子子も瀬来紙離も頭中て
子子子子子子や八ちとあい
ハナト名壽でめんき

兎角迷ふのいろは乃来由
野暮天皇乃御宇。女房大幸中にて女房だちのあひだの男女の女ら
の儀も王子の四角われが世月小用がある。
ちよんぼのあとりつく色里へ行れふくぐ。閏
女子さらくあい宝道とて。里でくきあい
つれちぎる女房の宝道ありしが彼女房
大かとけり。放蕩湯紙いたつめんと仏全
よし遅般若四若八若のやうらむぞう
こそは文紙わらけ。四十七字みなござめよ。
是則ち是ども便でもみかりやものつくぶる
いせいはさりとろや。京の字は弘内異ありて
ゐづ是ことは東で。後会古の。後会のよ流ある。

いろは新字

四十七字とかりくのことぐさちりつもるさ。淵香山成人やまもとだなーねも。君まんーど習ふ主家もすーとぬぐまい

諸方無性　いろさけにわみなまよひやす。
色酒皆迷安

註曰　もやうゃ孔子ふちっぬるの粉まへさあも八をへどのもおいことでちもいろをさをあいレこか迷ゆと

身性滅法　ちりうぐくゆかねのほしきは。
散動夢金欲

註曰　色と欲をいきのあの間のるいうちいちどハ家ーもおのれがかーぐもちりくーはあうぐんとゆめのうあるのぐ世の中ーとりすのいめぢきあいかもちりーあぐーいきくあるあいぐまいどんぐん金紙わりーるぐーいうを紙やーぐくいい大切ふとるゆえ、うを一ーぐって金ぐをこ

惣別不粋　たれもふいるぐう。つらね。
誰充滿辛氣

不食負樂　れへぬをあ忘てせむ。
寂滅敢而爲

註曰　ちりうぐくゆかねのほしきは。淵香山成人やまもとだなーねも。君まんーど習ふ主家もすーとぬぐまい

かまど洞大概

天　ハてんぐく
地　ハちぐひと
南天　ハあるてん
古文字　ハ唐話
竈　ハたまへ
お形　ハべ形
ハらんぐ
ハ物ハきりの
珊瑚珠　ハさんごど
お老人　ハおろうじん

もーくハあるまのまの八ゆるのまれとひくふあのくりとをぐーけのるぐあーくれハ大和言のをちつけるぐう

小野篁遺字畫

戯作者　式亭三馬戯著
門人　樂亭馬笑校

春夏

春うをと夏ハげんさで秋ふさぐ冬ハいんさで暮ハまとけ

秋冬

金ゆ者くゆりて婆ろ。母ハそう娘ふさつふう

暮

ふさぐ

錆

金ゆ者くゆりて婆ろ。母ハそう娘ふさつふう

錆

錆

[illegible]

鈗 金の死ぬ　ぐそん通ハ出さと失ひとそ番ハおやちよ

錠鍵 鉄鎖

鑓 金子と育ふえるふ金のこふ金ぐよくぐる貸ハおぶづら

釜 貸釜

借 金ハ借ぐがぢぐそう返ぐま借金とぐが祝ぐるおりけり

返 祝ぐやう

諭 爺ぐの金とのぐとみ見ハにるふ栄ハけるこ家ぶ

諭 説

家

[illegible]

罷 ゆくせんと罷まるぐけのぐを酒ぐのるぐ薦ぐおんぐう

酒

罵

疑 走るのみおとるる走追人ぐ歩足ぐるるひとぐ

遠

遷 ぐるぐさハ男女手ぐ手ぐ紙ひぐ走る。一人で走るけるるぐまぐら

近

起 口走るぐるれつぐ才ぐぐるぐめ鞠走のるまるとりぐう

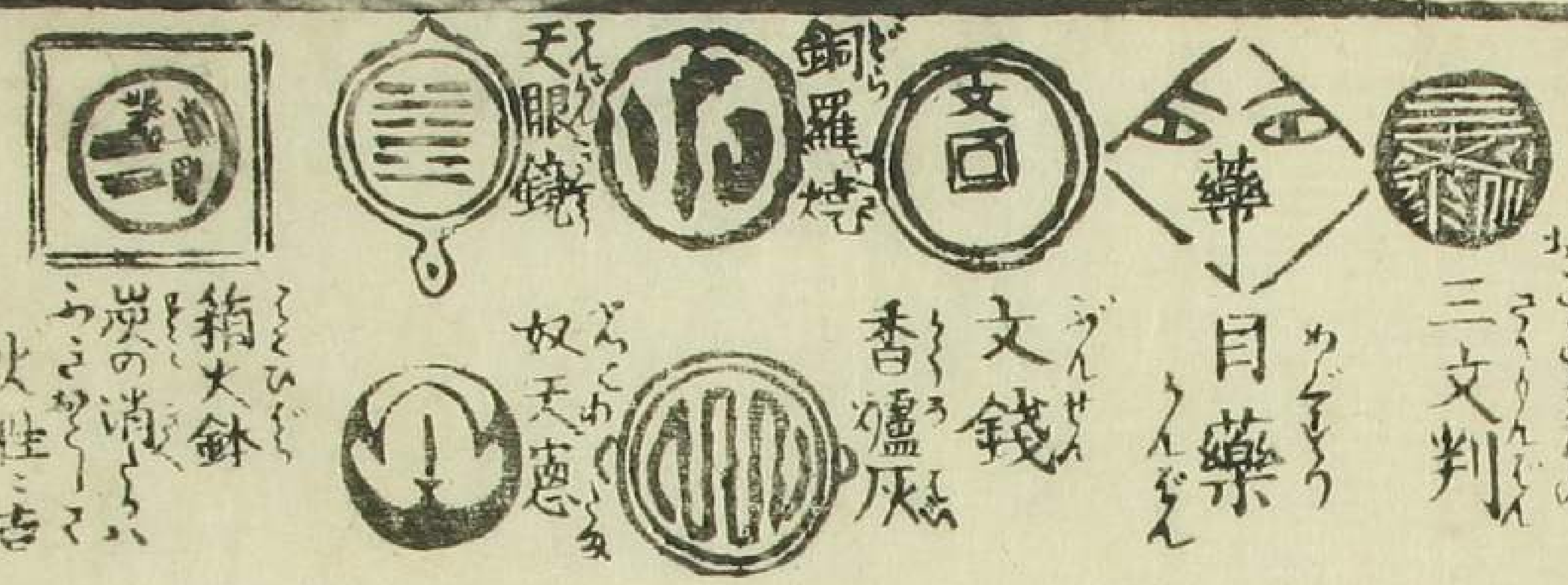
起

蹴

手の甲をなでるハてのこうぺろぺろ
横の青ハよこずんばう
ゐろりハゆうゆう
どてどハどうどう
目蓮折ハもくれんさま
蓋ハふたかしこ
芝居ハあくびや
茶釜ハちやがまが
狸八 おはりやのさき
呂律が喰ハろれつがまはらぬ
蝋燭一本 ろうそくのあかり
福禄寿ハふくろくじゆ
牛ハこさんで
夷ハあべを

門のまへに立をえんまへ立ちしと さどうと ハ 裸頭
大門どうぶんとおんみさんで札。女おさくめつふまちかせ
大門ひとつさまぐれ大門で出る うしろぐち 尿をうハおさと
挑灯をさんぐさ 格子ハぶらぶらする立見ハをけん火ハどうぞ

無性印判盡



男女 むひふみそとしろむさとかごやまどめあごく
男女 まんおう娘ろくろ子ハおやこ。子下もあらりがらろどど
徳取 むずらハ取がうこぞ まぶハ徳。いけん八油
早明 早く明人が伝いて 偶さうて 惚がちあぞ 掃ろうすの志

九十目ゞ太夫格子ハ六十目。庁目ゞんちで三ゞ目ゞけめ

睟 瞳 眼 目 間

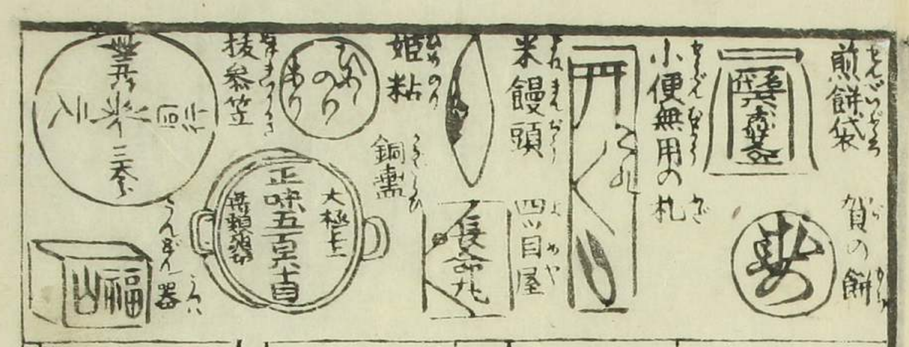
五歩くいひぢんでまく八歩。ちくさん三歩 幸歩

目ハ十めゞ木ひ引木刮ハてつ手ふ手れおまゞある

用 材 結 紙

笄ゞうさぎ爪ちんぐ鍋かけびそゞ降ゞひらそん

燐 炉 鍋 燁



片ちんで車ハねゞうよゞ吳ハあけゞ逆いさゞち

踝 踵 凹 凸

ゞのたんとゞまゞもゞはゞてゞくゞちゞ

罅 罅

杉杉

人と人つゞれゞくゞけんゞろゞ中ゞちゞん

人 絞 焚 人

糸ハ糸ゞ古ゞめ赤ゞ水ゞうゞゞかゞるまゞ

糸 金 糸 人

叶福助　因果車

番傘

象棋子

芝居幕

茶碗

銅納豆餅

菓子盆ハ煮染

硯蓋

路次口

大門口

芝櫚

大縄苞

足袋看板

山城屋

一く相性事ハ
つまてなりきさ
らぐをれでハ
市判ふんえど
ぶさきこくる
くちんぐして
だまんてみやと

石

三年ハちんぐ小さくつぶてさんのうくハつくわぐるうう

碎

申酉ハぞんく鍋ハいうとうよあくぶつぐいを向よけあひぞ

酬

鵜

鵜

鳥

いつまでぐさ

五大力

五大力ハいつまでぐさよいつまでもさらくまをくるもくく

富本

花屋

花屋のいもを仕をかるさうと柳ゆくあんせあう

門

見返

くさめさ

書妻森

くさめのさハ吾妻森ハ一里塚ぞえのさ嬉乃のうがちいの木

一里塚

姥森

猪

猪ハぐんさうぐい鹿さうあひの木あくハ和中散あう

鹿

和中散

雁

あくあう生ひうさ蛇ぐひのあんくくんくち鬱ちさんさ

雁屋

麓

堺

七舟ちくねさ木舟ハうさぎあて笘舟たれぐ年代あうう

桝

鮒

地

太申

蒭蕘

和義内とぐらを虎あんぐ狩人し庄屋とあらぐさんれけんく

鶏

鉾中

申鰲ぐんかんせん亀ハ[illegible]で馬やの申ハごさそうく

駐中

舌切

舌切ぐらぐあ助方うとぐ[illegible]大雄申ハお供まくさう

紐杵

犬神

[illegible]の祖押ぐらそ
銅石の戸ゑ祖父
刻せ[illegible]ハ戸の
わくまぐらの祖の字
と極ぐのぐわう。
吾朝ゑて八篆字天
[illegible]
戸形篆押ぐらも
いく其論肉の外
ぐそゑ似て更ゑ[illegible]
まぐ戸ゑ刻せんと
名ぐ篆く篆刻
字ハあくぐの作れ
門ゑめぐ。同断ゑぐ

蠱蠱

[illegible]の血あくゑ[illegible]眼ハゆんぢい

異

盟

魁

一口ハあくぐぐくよ鬼の留ぐ[illegible]ぐ異外ぐぜんぶん

魁

魁

[illegible]

金時

公風

[illegible]

木

火

土

金

水

[illegible]木ぐ[illegible]の山ぐ[illegible]ぐ五水ぐ[illegible]

んも法印満彫棒
らんどくおひ編り
十二刀法べ
わきふむべし

無性印判畫尾

五鹿書判
じろしらうだまんてきざえ
見てくろうさうら
らぶけれ

てちびさんの
のしぼり
おさるの本
のおり
木性ニ吉

みの
きんたまの
いちもつや
水性ニ吉

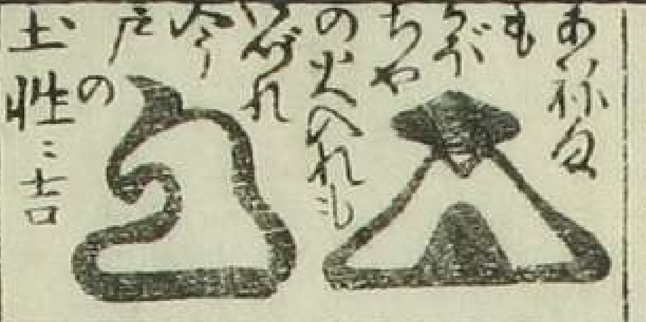
二八 三五 三十 四十
そそごころ てんぐく ふりそで えりまで
二八からそらし三五でんぐくよ三十ふりそで四十まぶくそ

十三 六十 十六 八十
ぼんぼろ かしや け みち
十三がぼんぼろかしや六十で毛十六あし八十ちふみち

十五 十九 三十 四十
げんぶく さちまろ りくまる ふんべろ
げんぶく八十五でオカそちまちよ三十かしまい四十ふんべろ

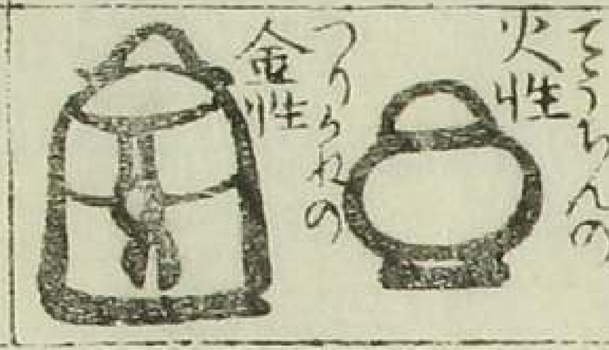
洄 胴 裥 䆰
ころくろま ふりふりこ くろんぼし さんこ
ころくろま目八くちびるく金くわん二べん開をとくべけり

土性火性
の人ぶかぶ
宅燈ハ孫て
まで大ミ吉


あおびら
もぶちや
の火へれし
発れ
今戸の
土性ニ吉

天王洲か
釜ゆで
ふさい
をつらそう
わげ名あの
水性ニ吉

わるひハらんぺい
あつがしら
ぶらしのるすの
いがたも金性


ちょうちんの
火性
つりかねの
金性

りん
駒がふんどしの
竹おぶくりや
土性ニ吉

榁 榁 榁 榁
よいく さらさら ざらつく たくまる
よいくハ榁じぐ榁八ざ榁㮾ざらつし榁全たく孫まく

窨 窲 𥨊 窳
こまち ころころ つきのあくや
穴をすハ小町穴知ざらつきへそのあくや穴ハ穴ふらうえ

窅 窶 穴
のぞく さしわれ むじな
穴の目そのぞき女ハさしとつく一穴あくむじなみくろう

窒 窪 穴
やかまし むさりく のろく
穴金八やかまし住ハ大むさしし人とのろの穴穴あらんあり

難字和解

和 戸掛 大和の和七夕の七

屁 屁に對ふ

肖 情に半分で肖

龍 辶のつまり 客色とぢいろもこんなみのつまりたんとあるのハリやうにこ昔

蛇 仲裏ハこゝとこゝと紅裏おくづとん洗英裏おく由良之介こ

虫 虫の中

鰻 やまさん

鯉 鯉の角ハさきゆちおさまるぬ角実名ハ細工てれつく

鰐 鰐

巳 巳ハ巳ぶこ己ハ巳とあるもの所巳巳己巳せどふ〻ゝとだるめ

己 己

巳 巳

何日目の日目 ハ酒飲み

寸 十月 寸のすと音宮の宮

宮

十六 十六夜の十六 皆ひらくる

昴 昴 物ぐるま

蠅 あのうるさむしぶ熊ぞよ出のつく娘ハゆぐん油でんぐう

蛾 蛾

蚰 蚰

秀 ひでさとふたゝでうぐゝ

郵 郵ぐゝ

頼 頼ぐゝで頼光ハつちぐもさのふ

公 一ひさふ三人のりハくゝうぐんよ馬三疋が三馬武亭

馬 馬

蠶字 蠶字終

芦藻

芦と藻も草冠つくりのへんそれは又あらたなり 芦藻共

鼓

太つゞみ 小つゞみ 鼓

太つゞみは大きく小つゞみは鼓より字はちいさくまるくるりくる

白 九十九

偏冠構字尽 並ニ絵鈔

へんかんむりかまへじづくし

偏は本字を附しる古文字ハ篆字字彙[illegible]よ[illegible]に摸文字彙は[illegible]四庫[illegible]文庫大江山奉乃怪異へ同じ止し[illegible]の化[illegible]出ふ[illegible]

○わさへん

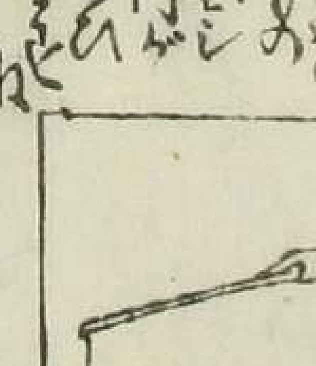
[illegible]

○[illegible]へん

[illegible]

○つりさかへん

[illegible]



○ぺんぺん

[illegible]

百の字か一字かあるく九十九

代 焼肴

月代の代さかなの字おさかな菜の字

月 大さる

月代の月は大きく[illegible]

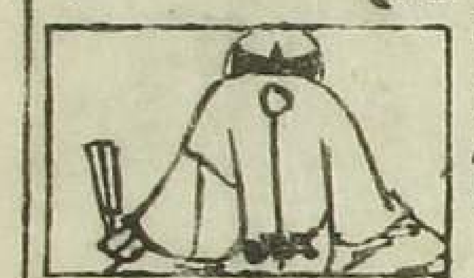
五十 夕

○[illegible]

[illegible]

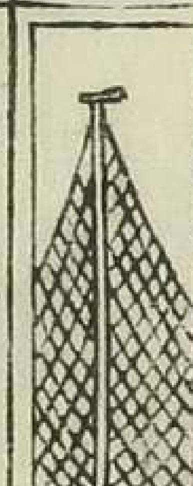
○ちや[illegible]

[illegible]



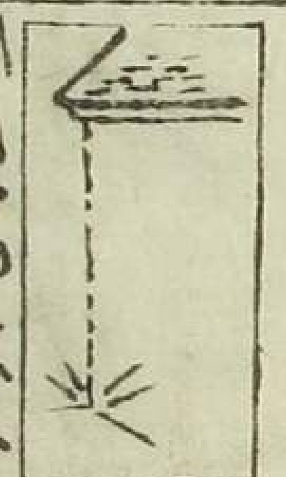
○[illegible]へん 海道

[illegible]



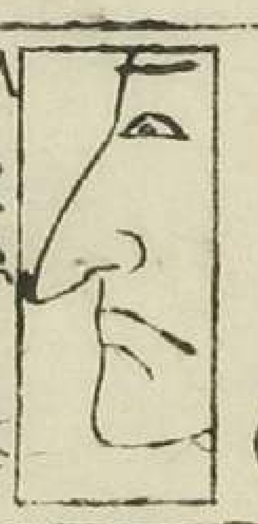
○わまぶち

[illegible]



○[illegible]へん

[illegible]



○つゞか[illegible]

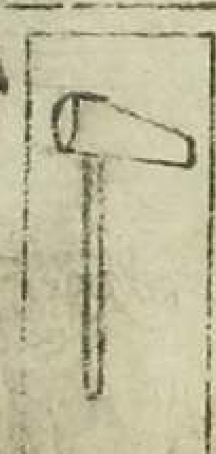
[illegible]

○小べん

小倉付[illegible]

○へんぞく

[illegible]



日 武士 晦日

大生壬 大和乃大壬生の生壬

酒造 君臣

口 ことゝうぶつ

品 こゝはもへん

品 ぶつくさんぶつ

品 めんぶつ

品 ふろぶつ

品 てんぺん

品 ぶろぶつ

品 さろう

仕 ぢうの大まるら後中ゆ中ゆ

名頭字畫

本性

杢 まつ

戸 ゑ

勇 ゆう

治 じ

和 へ

木 き

編 へん

仁 に

仏 きこ

子 よ

君 ふくこ

一 ちゝ

根 ねゝ

若 わかゝ

界 さかゝ

おいんざの字

おゝんざの牛乃ゆうの紙乃文字と生表とゝゝ

おいらんぐるゝ志ん
篆の額などにて紙
にて、ゐ字さと作る
よつ了梅の字り
げいぎさいく中
あそうなれの粉
どもいくあくめの
ありし余画の人に
つうじがさし又
一説に悔(のもの)さ
くる紙にて作り
しもいみるの字
横にゆくもち画数
の法にちしるゝ一手
名おいゝんど紋日と云

耳(よ)	表(さ)	留(る)	傳(で)
花(はな)	賀(が)	庭谷にて木名(こゝろへくいろは名寄)	古 論(ろん)
連(れ)	之(の)	火性(ふうちやうちんの)	手(で)
天(て)	小(こ)	坂(さか)	長(ちやう)

向用ゐ入(ミ)緑同の
言語頓異同なく
ころふらぐるゝ振
神拝造馬呵嘘
洲の偏に
亜(あ)唎(り)弁(ん)須の詞(ことば)も
知るべし

陳(ちん) の	鬼(き)	能(の)	土性(ちやうちんの)
赤(あか)	江(え)	弥(や)	権(ごん)
理(り)	手(て)	美(み)	米(べい)
論(ろん)	其(ちん)	男(おひ)麻(まご)呼(ち)陀(だ)	種(たね)

ウヨカタツシ

ヱスンザンナ

○タイツミッタ詞

おつれもうしな　ごわんよろ
オツレモウシナ　ゴノンコウ

おまはんぜゝろがねよ　よキヤクダヨ
オマハンゼヤガ子ヘヨ

わたやゝやきいはふざの　おきやくじよ
ワタヤヽイヤヽキイタフダヽ

箕	鑫	流	王
倭	金	末	敕
加	荷	為	者
愛	浦	親茂が宇夫破	奈

牆	丸	書	万
而	類	我	久
茂	何	甫	加
尾	琴	自	良

何が何でかんじやの枕言葉

雨がふるか　月がひかつく
月がくれるか　月がせぶる
風がふくか　日がてるかい
かげくが　ちぶまる
ゆくくは　まわる
ゆるは　そうまでと
男　ちんでん
妻　○びんこう
ぢく　○ころいと
ぞく　よろさ　ちんで

陳天津。
迚茶兎

凇

陳天津。迚茶兎	都	矢	負
凇	倶	迺	伍
仲	時	邑	猿。
紂	語	苧	一備

娘　がつて
子供　ころで
下女　ゆきさ
きつとい　がんどう
客　きえちや
女房　やん
女房買　やんかまよ
げいしや　くしや
舟　うろし
芝居　ちんさやり
けんぶつ　さつく
浄るり　こつらこと
うろうか　こうかか
語り　ちこらくす

雅	名	社	先
深	仇	勢	瀬。
革	浪	世。	那
恵	陀	園	可

永 亭 湖

去 鵜 薫 庭

呑

陳地理地而。
郭天地。
真光津頃。

名字尽 終

稀有
化系

異 郭 吳 名尽

屬

物賞

後家

髭

新

異

同

口

七

上江傳七

円

横江傳丹

十

竪横十太

平 平 平

吉 吉 吉 吉

三 四 五 六

九 十 百 千

千 万 億 兆

笑
蕨
つぼ
つぼ
大
小さい
あわび
鮑
飯
食
汁
たこ
香の物

八十八
百白
白白
四井
五郎 五郎
良良良良
壹三祝
七八九
五十六
廿郎
横木仁十郎

小判
小つぶ
蒲鉾
代物
二面
鯉を
たごと
まごさ
せぶり
たこ
湯豆腐
製造

大げん
小ぶん
ちろ
ぶ
ごま
たらう
まごも
ぶり
ちん
ゆかまつ

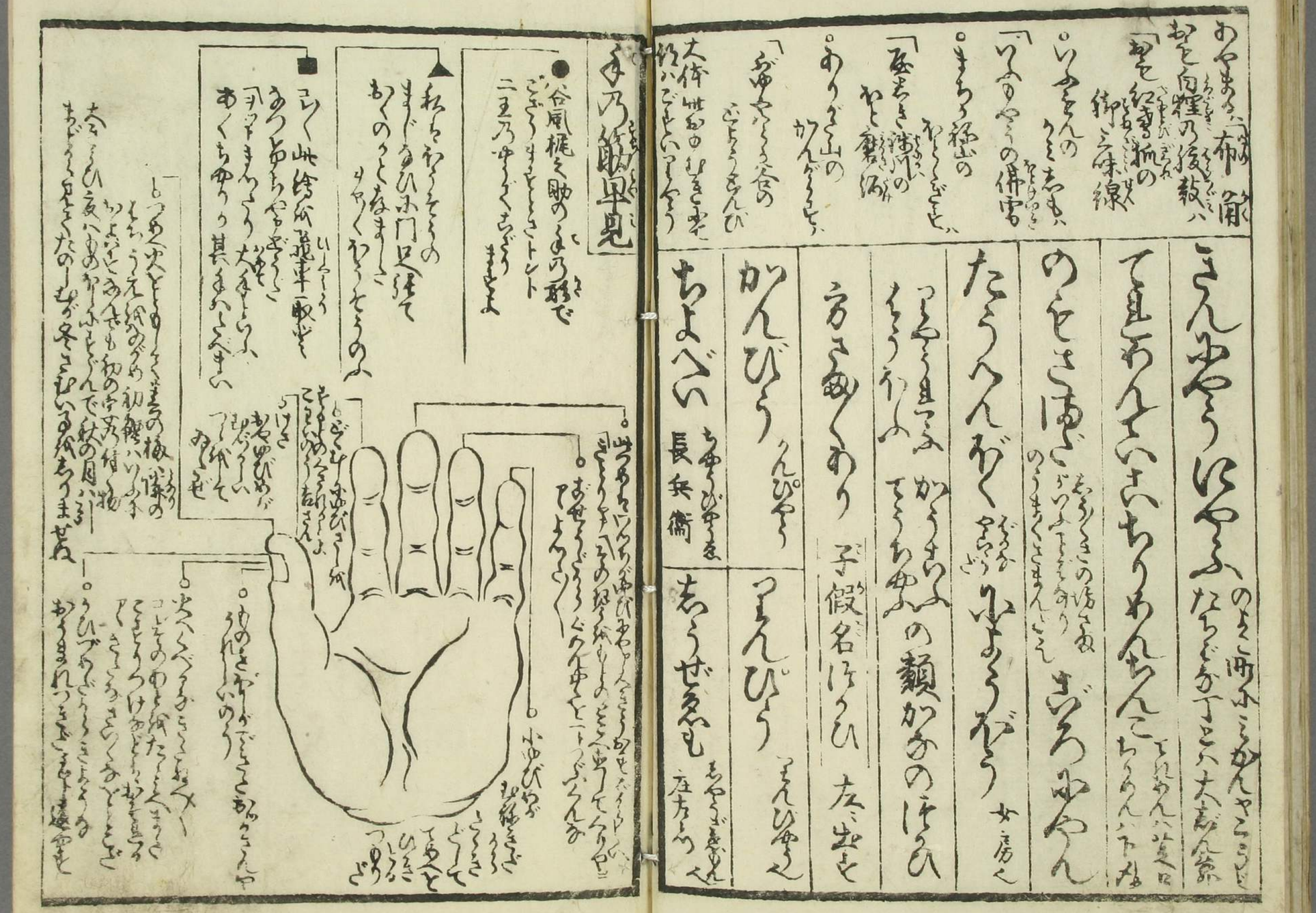
山
山下半之亟
田
田一ノ字
坂田一六
口
田口十内
五郎
下妻上五郎
林六
小林大六
小さい林ゐ
大きる六の字
素
須賀と横木玄
横須賀短兵衛
皆坂逆右衛門
山左衛門
長山長左衛門

変書かなぞらへ

あやわふう	猫の	こまうめう	通人の	ちんちむ	芝赤の	おまえん
ちやわふう	高慢	きんちむ		ちんかん	大きな	ちんちむ
ふうんかん		ふうどうう	ろの声	おまえん	女中の	かんてうらへ
ちんくふう		ちんべらぼう	わらべ	ちんくふう		のくくくう

おんこゆう	ちんちむ	きんわう	ちうちんら	ぢんちんあ	ぢんぼむく	ふうたふう
		ぢうたう		つまりふ		かうぢんふ
ゆうまふ	かんぐふん	ちやう	春ふせう	こんちや		

換金	鍛冶	三	五	六	月わり
卯		巳			徳


長兵衛

○かぶとの人形の
つくり人
まゆ世伝
ごとくつぎ
はさ
まぶ
てゝ
ゝの
ゝ
ゝを

○ごとくごとくぜんと
流るのく
の手

○コレハ且那ごとで
うまとの手

○コレハ
山ぶき
いろ
○いつてくる手

○めくいごとの手
「ゆのれさいて
ちらーせまち分
ぴんしまり」

○陸あるく手
いろ〳〵ごとも
ありまぶ

説圖紋痕えんをいうで

一紋	廿四紋	小紋	深

難房雷散小紋。家根板剝山椒乃紋。ごとく
あり。時ハ流行しかつゝかつゝゆめ〳〵ハ小紋性といふ紋
ハ吉。此紋消るけら速ハ先祖ごとし異國紋
大きあり吉。其屋乃形。用後用ゝ紋ごとしべし。

惣嫁夜發辻君之君ごとい出ハ「アノ女郎」さん稱ゆゝ七十ゝ。夜ゝ出ゝ出ゝ紋ハ
ゝ。晴ゝ雨ゝ出ゝ大ゝ吉。此紋白ゝ出ゝ形ちアム
嬉物ごとまれて喪ハ形ゝ敵ゝ出ゝ。大業ハ小口ハ大吉

寛永通寶青銅孔方。アア諸物びゝ。青蛙洲泉
ちゝ太郎。せゝ名同ゝ文ゝ。ゝ。ゝ吉。洲通ゝ
一紋ゝ云一文の洲中の町ゝ頂ゝ。ゝ紋ゝ。一文の泉紋
清川で探ゝ武ゝ。紋ゝ。ゝ紋ゝ。ゝ紋ゝ大吉

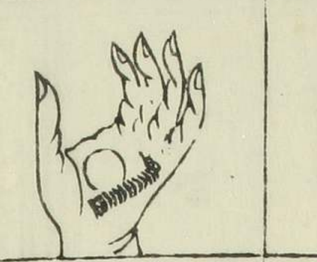
大門紋

大門口へ揚屋へあれいこそふ。異を異動し、お駒鞍
ゑ頭ひこる一ト本ゝ中くゝ。岩を女郎も達紋紋ばかりま
ぎんバ事小終身と深ゝ。大紋生れば家とおゆひ。大
紋八ゑバ紋紋湯と大紋乃ゝ鶴ゝ去大紋の侍伏大蕊

於花三紋

御花二文小林の朝比奈ふゝゝ地口おわゝど。チト
小早乃胴高ひ異紋おれ三紋とよぶ。ちゝ
結乃お茶湯つゝぐ。神佛と信ゝ吉。又お花
荒代松。此紋ゝ似られども語女ゆわり

御印紋



御印文おゝひ八百紋ゝ。釈ゝ。
人おゝゝ懐ゝ百紋生れば山御印文生
異ゝお異ひ紋ゝ。ゝ同百紋ゝ
後生安楽浄ゝゝ。未ゝ光如来紋信ゝ

二王紋

相撲乃同の如ゝ紋二王紋。大ゝゝ紋山紋
世ゝ。紋禁男ゝ。ゝ小出世とゝ。此紋
ゝゝ力ゝて苦難ゝゝゝ作ゝゝ。本当
紋屋紋白屋食ゝ。ゝ。ゝ吉。

定紋

三升乃紋。此紋ゝ紋ゝ。
流紋都。御人乃上ゝ三ゝ数異ゝ。
ゝ幸ゝゝ後ゝ吉相ゝ。ゝゝゝ運
開ゝ代ゝ。ゝゝ

註紋

注文ゝお寺ゝ乃ゝ。ゝ岸ゝ紋ゝ二ゝ
ゝゝ。ゝ。ゝ番の物ゝ。冷飯紋食ゝ注紋。
夫婦和合ゝ吉ゝ。ゝゝ結ゝ。ゝ。ゝ
注文ゝ乃ゝ。ゝ揚ゝゝ注紋ゝ。ゝ紋ゝ

學紋

学紋といふは筋あるを以て学漢学。その紋の内小流れなり。人の紋人事あるを以て武家ちんぷんぷんぷ

人相小鑑

福相

○下司のたぐひ、ものいふ、ことばすくなくして、尾張あづま、紅門ぐち、永紋絞

人相同じうして人乃面の如しと雖

人相ちがへども

面もまたおなじ

面を知るべし

金銭傾くとも大

づくり。今銭傾くとも

作づくり。常の時の地義相

逆と時乃剛強相。

時をかりて其の相あり。

ふうとも。女房も鬼のわとある。夫ゆく相

人相圖論

一、聖二賊三愚

四、古五孤六貧

七、惡八俗九

貴銭八相とする

あり。男女ともに

此大概をもつて

考べしいのち

主者のさとしに

四相あり。義強文

先銭くらく八

相銭考ゆ志。

金がある相

やくまー相

吝相

嫉妬相

と世の武士八相
とべらべらさらふ
出世の器八四相
と慢者くて十二
相ゆわくとピント
四相ぢるあくさの
ゆわくさや。
同齢ぐ抹香ゆ
ありくかく面と
ちぶ相。べ結く
さるゆ浅相。ふ
ふくさるゆ姥
相。もくさや。

氣ゞ短相

ふくかく相

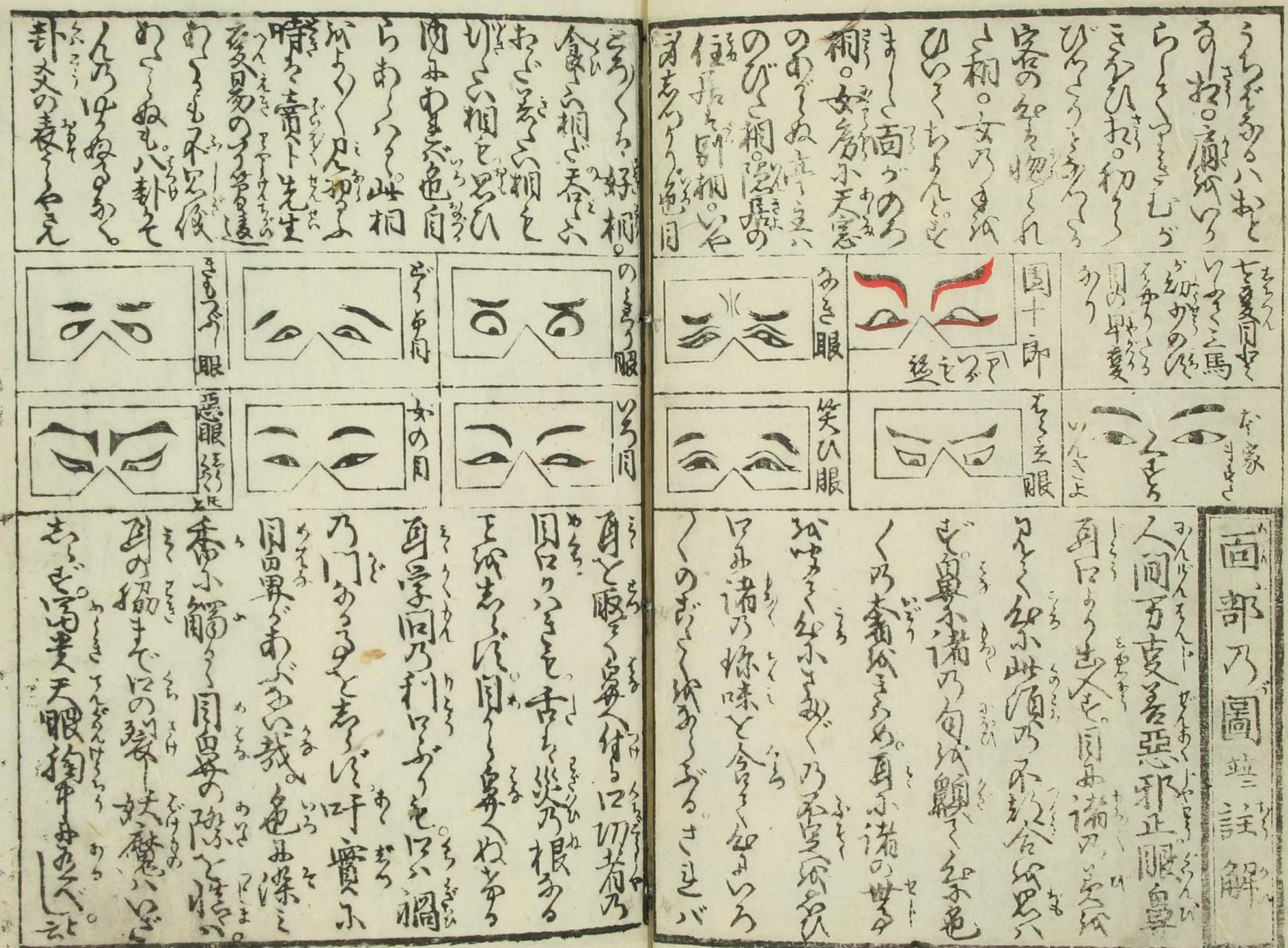
ぢるかく後ど三
ね。ゆ世ゆまして
のどとぐびりく
さるぶひやど相
。もかかふから
とくかく高く
さまるかぶ大相
。初艶ゆ仔勢や
で人良ふ面ハとう
砕ね。天美ゆ
うぶくくるのぶ
正座ゆ相むせふ
ちふやとるぶ
ね。もくくさや

丹相

すぐ結さ相

ふ見相

貧ー相

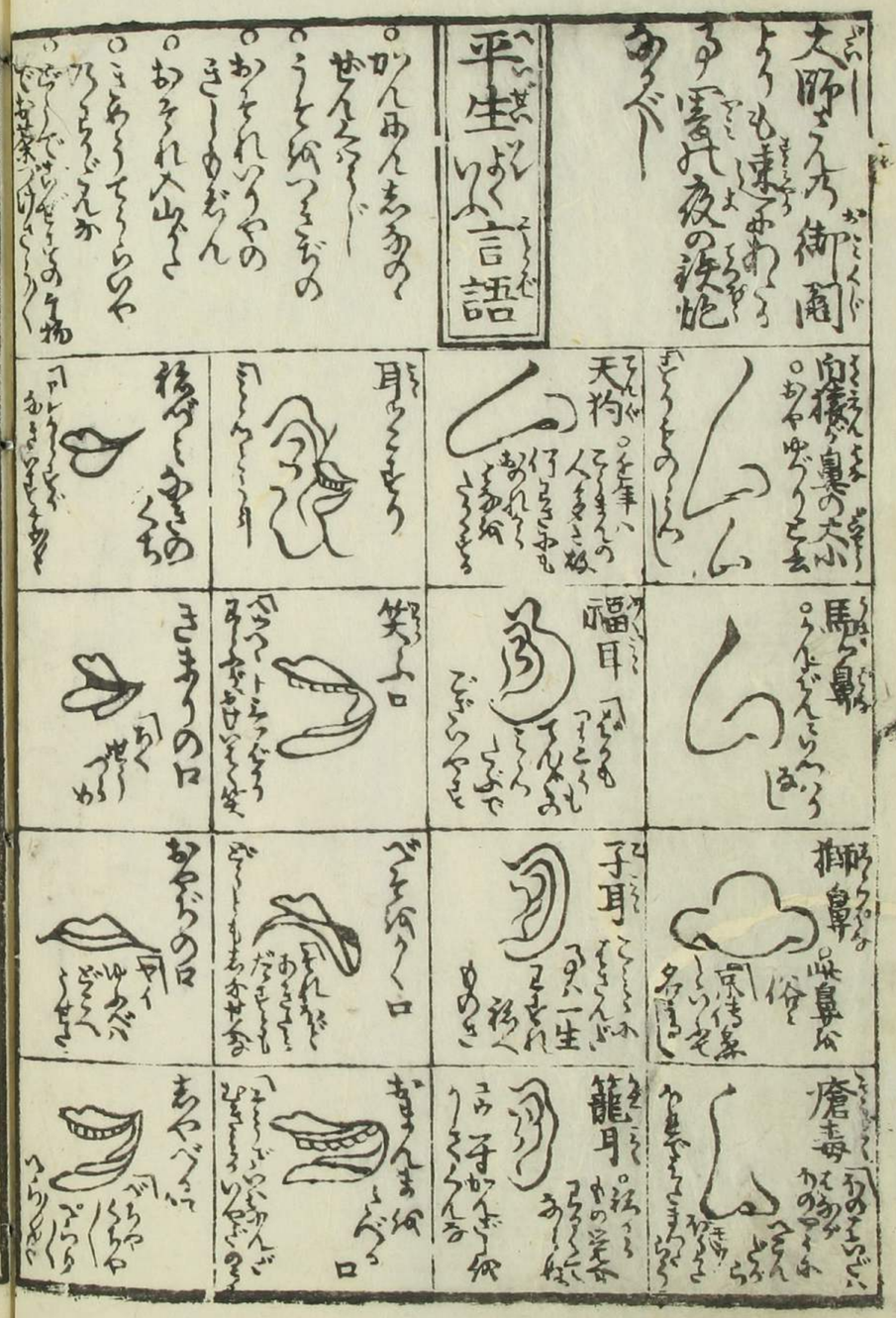

面部乃圖 並註解
人間万変善悪邪正眼鼻耳口の出入を同無諸乃吉凶知此須乃不敢合知思ハ
ど鼻不諸乃角成顴く知亀
く乃衝成ま乃。耳不諸の世乃
知ゆく知ふまぐ乃不宮成成
口ハ諸乃妙味と合く知ふいろ
くのおく成ゆくるさ辺バ
笑ひ眼
悪眼
女の目
いろ目
のまろ眼
ぐ乃目
きもつぶり眼
好相。食ふ相ど呑ふ
おどろふ相を
りふ相を思ひ
間みわまぶ色自
らあふ山相
かふふ晴を賣ト先生
変易の子答遠
あふも不宮成
めふぬ。八卦そ
んりはぬ。
卦文の表ふやえ
耳と眼く鼻付る口切者乃
目口ハ舌を災乃根ふる
正成ふ目く鼻ねふる
耳宮同乃利口ぶを口ハ禍
乃門ふるを表ハ口吁實ふ
目眉ぐあぶふ哉。亀ふ深を
番ふ觸く目鼻の際を指ハ。
刻の猶までにの表妖魔ハぶ
ぐ。面美天眼猶年みべ。

大師さまの御面
ちらも来てあわれる
る雲は夜の浜地
あるべし

平生よく言語

○かんあんもあるの
せんとうこと
○うとしてこぶの
○おそれいりやの
きしめどん
○おそれ入山さ
○きちらいらや
乃ちらどえか
○ひらでせもこの物
でおなべ

○のこしたこのひーとん
ちいくべちくとちあ
○おそろかんちん
まちこしくらさ
○きぶのあのたぜーじ
○ちゑ様のあんまあ
○つれおいの舌と出
○辛抱めしに大根
ちやくのこ
○吉田通れば二かい
うくもう行く
○かんどの八所ばり
○あまえ百までらや
九十九まで
○あやまちのはてら
○大笑ちゑんくわせ



諸流小話

一流毎ふようくせあるゆゑ
ふうかくくんべし

高砂

「ちゑあれたこ
ひこい波記ぶふくぷふ毛はまるとさんうぢの。
乃ぐこれあるさねこよあれや。たひふもひうひの
松ちそわぐこうあ毛ぷげあやちふぐこと。おと
とかちうやかるふふきあるこ所こくけこうあるきと
乃わぐこどちこたく
「毛」せあのじのこ
ぐあんちゑ鶴亀

○ふさぎのもの
あるがて
○大ちがひたるこれ
○ぞうやでかがちぶ
ちうまとど
○あぐぶでさぎもれね
○がんぶくちぐ
あぐこて
○ぞうひあんど
ふくくしの門ど
○たぬきのさんよも
ハでぐぐ
○ふくくちあるあお
○やまくハやうん
うづま
○あやたの縫ぎぶうまれ

○ふんぐこうあ紙
ぼうつぶせ
○ちくぬ紙のまま
○ちぐぐせう
ぐちやのぶ
○ちぐのくぶ紙
○ぐぐのぐうまの
ちんの下
○ちまんのごぶり八ぼむ
○ふくきんふ
あぐちあつあぐ
右地にまぐまふ記

しうたまぐ口紙
ちくくんつ紙ぐぐち
ぐぐあつんぐぐ
とちふ出ぐ牧

モヽ屋乃ゆぐこあんぐぐあ金後乃ゑのう。
えんあぐぐ。ちきこのとぐのくろくのこぐぐで
ちやんさいけやきげぐめのくれちくさぶちうけ
て。山乃ちんさきぐ池ちらこあぐつくとあも一人も
向名も紙でも鬼でこ。森一年くもんぐこで。
お正月乃食橘さくうんくあうで。モ。まわう
まくく綿ぢや紙くあんぐうけぐが。ちくぐを。
ゆくくぐくぐのをくくぐやぐぐうん紙く出服
さうあ乃いあぐくこくさ。ありかくくあんぐ。

侠客乃養老

きぐれめくくくとぐかくまくくく義めん
乃かくぐあやくあ茶ふあくべいくいくくふ蕎麦
の麦の字ぐくくくくあんのむぐ。ぐくく紙く
くぐくくあ中くあくくくあうぐうあと
吃の作生湯
ちくくくくくくくくもんもかぐの

[illegible]

面の圖

外面 如菩薩

内心 如夜叉

[illegible]

五大加 山嵐 大弟 同

[illegible]

海の波もおだやかなる御代をめでたるあらたまの

[illegible]

不工面

能工面

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

面乃変

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月乃異名

▲睦月　▲如月　▲正月　▲二月　▲三月　▲四月　▲五月　▲六月　▲七月　▲八月　▲九月　▲十月　▲霜月　▲極月

●あらたまつき　●きさらぎ　●月　●卯月　●初午　●雛祭　●誕生　●端午　●天王　●七夕　●月見　●菊見　●講　●顔見世　●餅搗

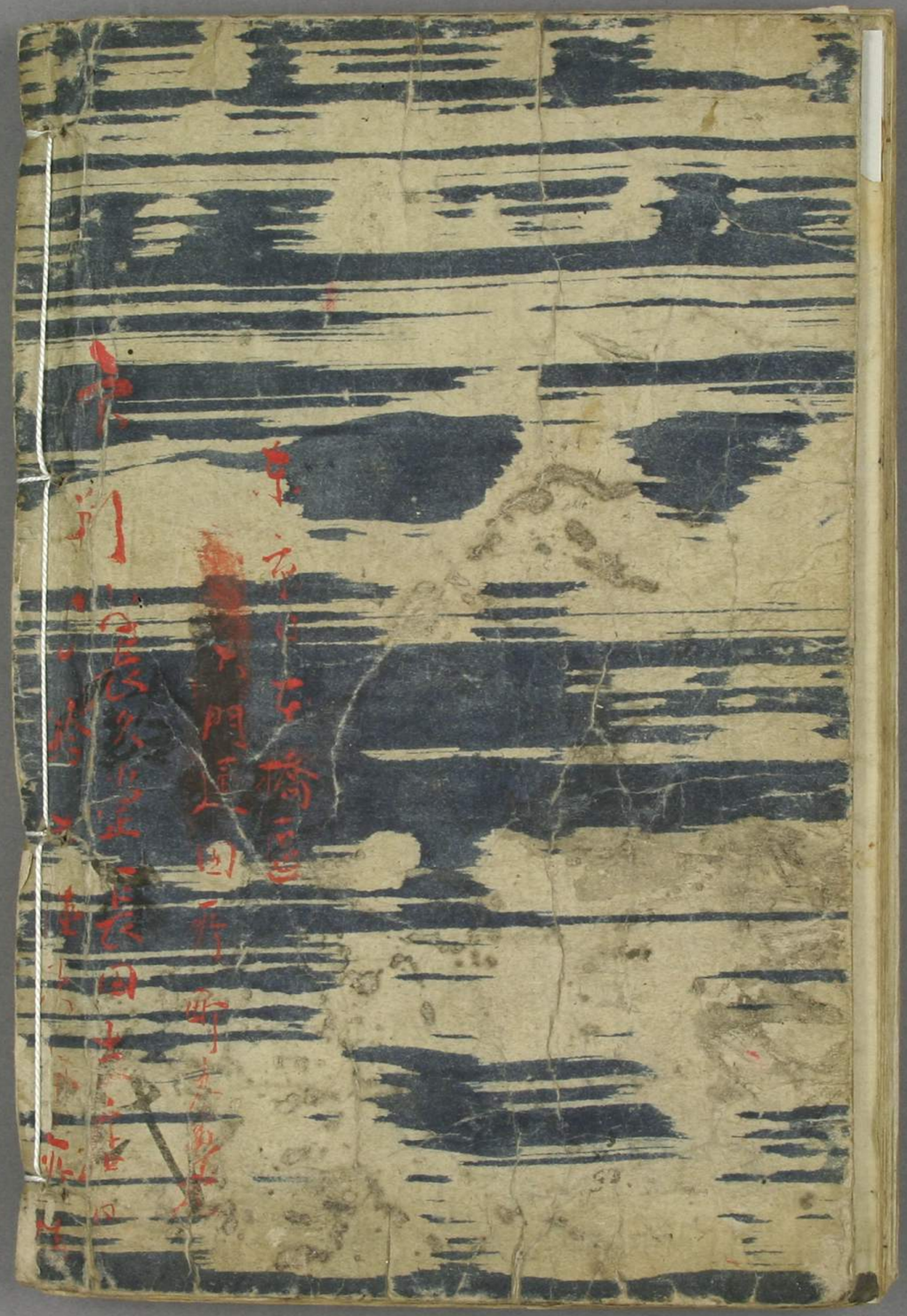
游戯堂　式亭三馬著

拍案驚奇　英雄譚　三馬作　歌川国貞画

○前編にて三馬作よろしく本小冊にして新たに多く出板仕候間出版求め給ふ後編経備年希上

維時文化第三稔丙寅春王正月

發客

本所相生町壹丁目

紙屋利助板